

検証とりまとめに当たっての課題整理

環境省の過去のネズミ類対策事業に係る検証結果のとりまとめに当たる課題を以下のとおり整理した。

(1) ネズミ類対策事業の目標設定

当初のネズミ類対策事業は、根絶とその維持を目標に対策が進められてきたが、平成21年度の事業成果を踏まえ、島の地形の複雑さ、殺鼠剤や散布方法の問題点、再侵入の可能性が考えられるようになり、「根絶」が難しい島があることが認識されてきた。今後は化学防除技術を用いたネズミ類対策事業の技術的境界やネズミの生態的特性を踏まえ、リスクや効果等の自然科学的条件とコスト等の社会的条件を踏まえた対策検討が求められる。

- ネズミの生態的特性や小笠原の特殊性を踏まえた対策検討
- 化学防除、散布技術の技術的前提条件の整理
- 技術的境界や再侵入リスクを踏まえた広域的なネズミ対策の検討
- 対策後のネズミの再侵入防止対策、再発見時の緊急対応等の検討

(2) 殺鼠剤の散布による土壌や水域への環境影響

過去のネズミ類対策事業における土壌等への残留性評価として実施した兄島でのベイトステーション使用後の土壌や水域への殺鼠剤成分の溶出は検出限界以下であった。現在、室内試験結果を踏まえた空中散布による溶出のシミュレーションが進行中である。

- 過去の散布事業における毒性の残留や富栄養化に対する土壌や水域の影響評価
- 事業の事前事後の影響モニタリングによる環境影響リスクの把握

(3) 殺鼠剤の散布による非標的種への影響とその緩和措置

実証試験結果を踏まえた非標的種への影響としては、特に希少種や人体への影響の観点から以下の項目について影響評価を行い、必要に応じて影響緩和措置を行うことが求められる。

- ネズミやオカヤドカリの体内残留によるオガサワラノスリへの2次毒性の影響評価
- 殺鼠剤の感受性と喫食性の高いアカガシラカラスバトの個体群への影響評価
- オガサワラオオコウモリやアカガシラカラスバトの餌資源を踏まえた対策時期検討

- 殺鼠剤を喫食した海水魚の体内残留によるクジラ・イルカへの2次毒性の影響評価
- 殺鼠剤を喫食した海水魚やウミガメの体内残留による人体への2次毒性の影響評価
- 影響緩和のための技術改良（殺鼠剤の種類や形状、散布時期等）

（4）殺鼠剤の空中散布による洋上流出への対応について

ネズミは海岸部の崖地や砂浜にも生息するため、撒きもらしのないよう海岸部もくまなく散布をする必要がある。一方で、空中散布は風の影響を受けやすく、過去用いた手法では、殺鼠剤の洋上への流出回避は技術的に困難であることから、空中散布に係る技術改良や、散布後の回収体制の強化、手法の組み合わせによる対策実施が求められる。

- 空中散布技術の改良による海域への非意図的散布への配慮と手法の組み合わせによる環境影響リスク軽減の検討
- 船舶などによる殺鼠剤の速やかな回収体制
- 海流による漂流や溜まりやすい場所の把握と通報時の迅速な回収対応